

経営比較分析表（平成30年度決算）

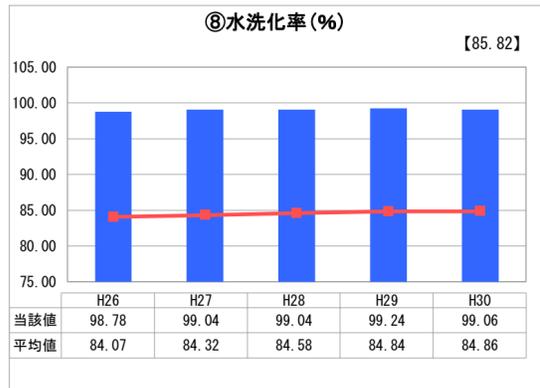
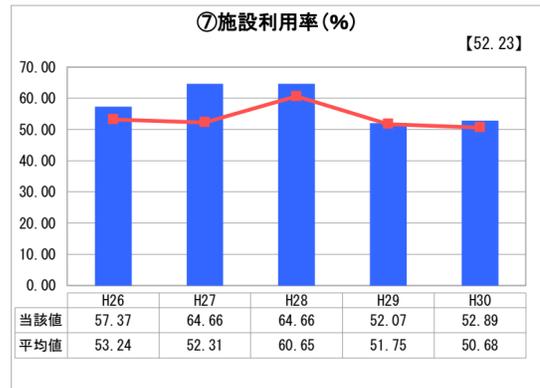
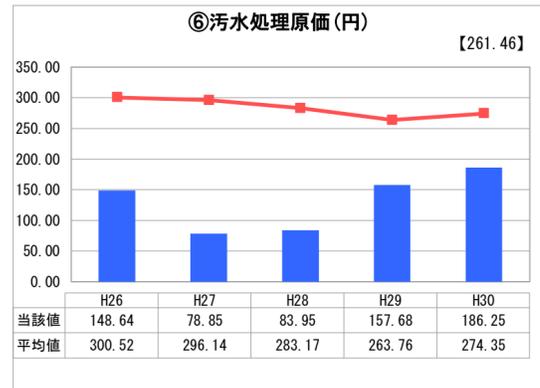
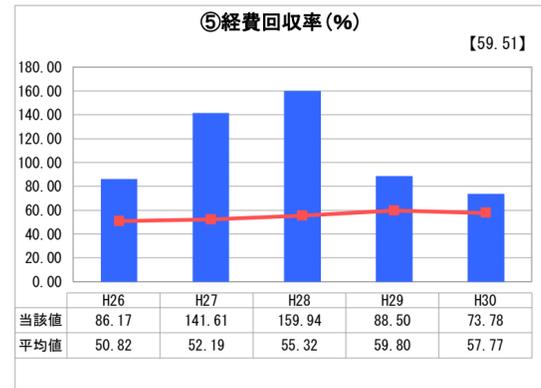
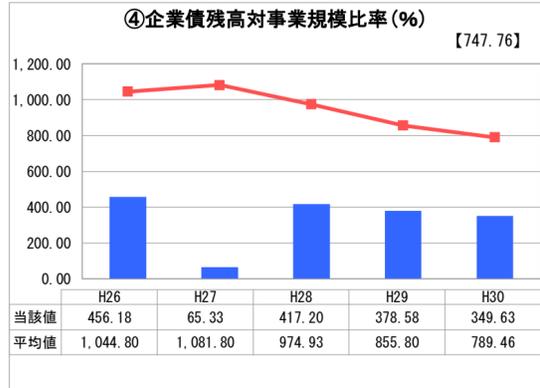
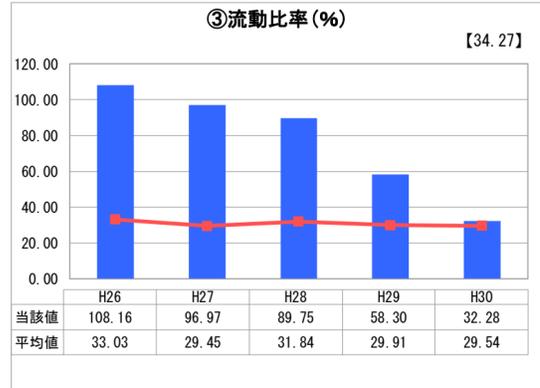
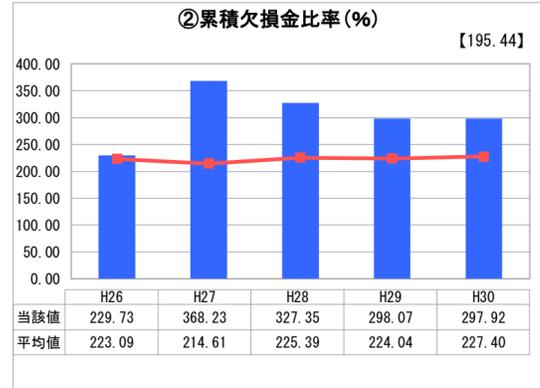
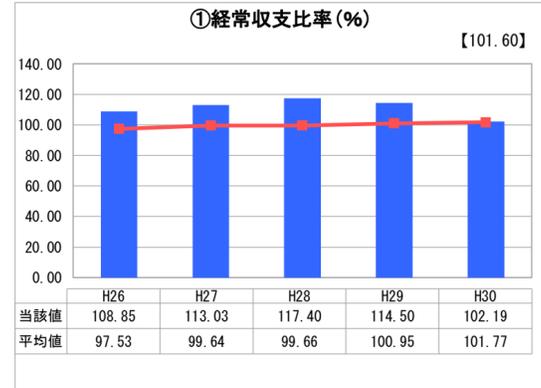
兵庫県 神河町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	63.77	25.16	100.00	4,485

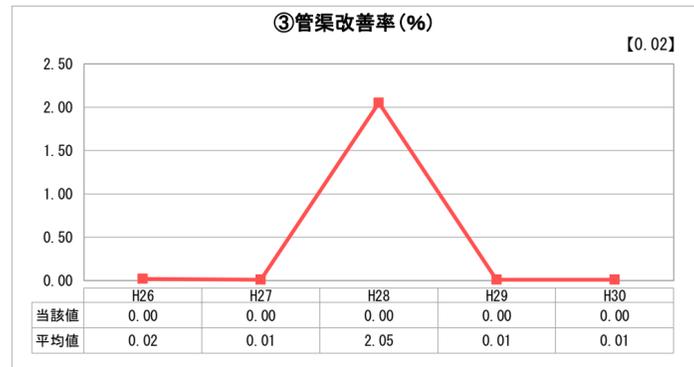
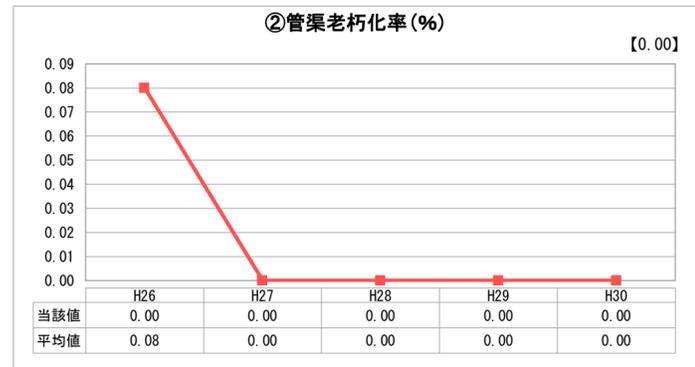
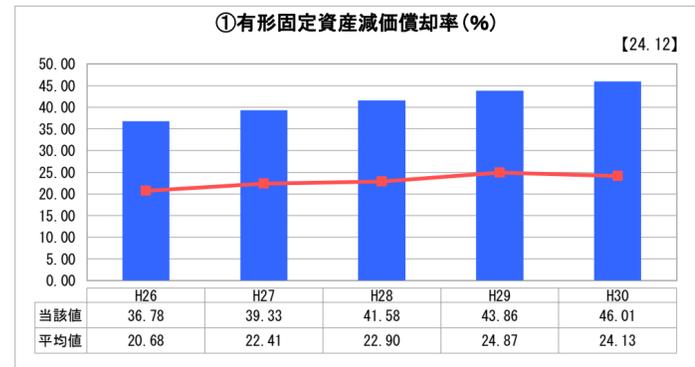
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,473	202.23	56.73
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,874	1.71	1,680.70

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当町の下水道使用料は、従量制でなく人頭制を採用しており、地域創生の取り組みにより、町全体では世帯数が増えてはいるものの、人口が減少しているため使用料収入はほぼ横ばいで、経常収支比率は100%を超えているが、依然として一般会計からの繰出金に頼った運営になっている。
累積欠損金比率、流動比率については使用料収入の増額が見込めない上に、操出基準により算出した繰入額が年々減っていることが影響している。

2. 老朽化の状況について

管渠では管路は特に問題はないが、マンホールポンプ、中継ポンプの機械装置修繕が多くなっている。
処理場においてもポンプやモーターなどの機械装置修繕が多くなっている。

全体総括

当町の下水道事業は、合併浄化槽エリアを含めて、全町で生活排水処理施設が整備されており、集合処理区での生活排水処理率は98.7%と高い数字で、住民の皆様々に快適な生活環境を提供している。
当町の下水道使用料は、水道料金とともに県内でも高額なので値上げは難しい状況にあるが、令和2年度に料金改定をして従量制へ移行するとともに、消費税を内税から外税にする。
現在、施設の統廃合に取り組んでおり、5箇所ある農集施設のうち3箇所を特環公共下水施設に統合する予定である。
下水道事業を将来にわたり継続するためには、経営の健全化・安定化が必要であり、経営戦略に基づき健全な運営に向けてコスト意識の高揚、経費の削減、未収金の収納に努めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。